

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 10 月 21 日現在

機関番号：15301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2015

課題番号：24730420

研究課題名(和文) グローバル化にともなうアジア系女性の人種認識・表象の再編成

研究課題名(英文) Reconfiguration of Racial Recognition and Representations of Asian Women in Contemporary Asia

研究代表者

高谷 幸 (TAKAYA, SACHI)

岡山大学・社会文化科学研究科・准教授

研究者番号：40534433

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：消費社会のグローバル化が活発なアジアにおいて、アジア系女性をめぐる人種認識・表象の再編成を明らかにすることを目的として研究を実施した。

調査の結果、国家間関係やナショナリズムが人種認識のプロセスに影響を与えていること、また日本におけるフィリピン女性については、消費文化のなかで表象の変化の兆しがみられると同時に、地域社会のなかでの対面的な社会関係を通じてフィリピン女性にたいする認識が変わる可能性が明らかになった。

研究成果の概要(英文)：This research aims to investigate the reconfiguration of racial recognition and representations of "Asian Women" in Asia in the era of globalization. Firstly, the results shows that the processes of racial recognition of Asian women in one country differ from those in another country within Asia, which means that the racialization is defined by the national contexts even when there are similar styles and contents of cultural consumption.

Secondly, regarding Filipino women in Japan, the recognition and representations of them have been changed through popular culture such as comic books as well as the direct social interactions in local communities.

研究分野：社会学

キーワード：アジア系女性 人種認識 人種表象

### 1. 研究開始当初の背景

今日、人種差別が法的に禁止され、また人種が「構築」されたものであるという認識が広まる一方で、人種差別がより巧妙で見えにくくなっていると指摘される。同時に、グローバル資本主義の拡大を背景にした人種主義の変容も着目されている。一方で、人種研究においては「アジア系」内部の差異や序列は十分な研究がなされていなかった。他方、アジアにおける移住女性の研究においても、人種による排除・序列化について部分的な指摘はあるものの、彼女たちの日常的な人種経験が十分焦点化されてきたとは言いがたい。

そこで本研究では、人びとの日常生活、とりわけ消費局面における他者や自己にかんする人種認識のプロセスおよび消費社会の広告戦略に着目することで、アジア系女性の人種認識と表象について考察する。それを通じ、グローバル化とともにアジア系女性内部での差異化・序列化の論理と過程を明らかにする。

### 2. 研究の目的

グローバル化とともに消費社会が展開されているアジアにおいて、アジア系女性をめぐる人種認識・表象がどのように再編成されているのかを考察する。具体的には、以下の2つの問いを明らかにする。

(1)人びとの日常生活における他者や自己にかんする人種認識のプロセスに着目することで、「アジア系女性」内部の差異化と序列化がいかに構築されているのかを考察する。

(2)人びとの人種認識に影響を与えるものとして、特に消費文化における人種表象に着目する。

### 3. 研究の方法

人種認識については、政策および移民の割合に大きな違いがある日本およびシンガポールにおいて、マジョリティ女性（日本における日本人女性、シンガポールにおける中国系シンガポール人女性）とマイノリティ女性（両国とも移住女性）にたいするインタビューを実施する。また、消費社会における人種表象のあり方を明らかにするため、アジア系女性をターゲットにした化粧品の広告分析も行う。

### 4. 研究成果

第一に、グローバル化のなかでも国家間関係やナショナリズムが人種認識のプロセスに影響を与えていることが明らかになった。

まず日本におけるアジア系女性の人種認識については、アジア系という包括的なカテゴリーではなく、エスニシティ/民族ごとに区分され認識されている実態がある。そこで日本での研究対象としていた者のうち日本人を韓国ポピュラーカルチャー消費者に限

定し、比較対象の在日コリアン女性含む32名に聞き取り調査を行った。韓国ポピュラーカルチャーはアジア系カルチャーのなかでも最も消費の広がりを見せており、また日韓関係という政治的緊張関係が、文化消費や人種認識の差異化や序列に与える影響をみるのに適しているからである。

くわえてシンガポールでも韓国ポピュラーカルチャーは広く受け入れられているため、日本とシンガポールにおける消費実践における人種認識の比較が可能となる。そこでシンガポールでも韓国ポピュラーカルチャー消費者にインタビュー調査を実施した。

この結果、日本では、消費者が「韓流ファン」という自らの嗜好を周囲の者に明かさないようにしたり、政治と文化の区別を強調するなど、日韓関係の影響が消費実践に大きな影響を与えていることが明らかになった。こうした消費のあり方は、韓国との間にそうした政治的対立がないシンガポールにおける消費実践とは大きく異なっている。

またこのとき日本の消費者は、日本と韓国の化粧品やその広告に起用される日韓の女優のエスニシティの違いを強調する一方で、シンガポールではどちらもアジア系化粧品やアジア系女優として認識されており、その区分は曖昧である。一方、シンガポールではアジア系については、東北アジア系（マジョリティの中国系女性も含まれる）を、東南アジア系（同じシンガポール人のマレー系が含まれる）や南アジア系（同インド系が含まれる）と区分することが一般的であり、このとき東北アジア系とともに含まれる日本と韓国の違いはほとんど意識されていない。むしろマジョリティの中国系シンガポール女性は、自らと日本・韓国女性を同じカテゴリーに含め、マレー系やインド系のマイノリティシンガポール女性との区別を重視する傾向にある。

このように、グローバルな消費が拡大する一方で、その実践やそれとともに人種認識は、ナショナルな文脈に大きく規定されていることを明らかにした。

一方、日本におけるフィリピン女性については、消費文化のなかで表象の変化の兆しがみられると同時に、地域社会における対面的な社会関係もフィリピン女性の認識や表象に大きな影響を与えていることが明らかになった。本研究では、途中からエスニック・グループの活動にも考察の対象を広げて調査を行い、対面的な関係において人種認識が変容されるプロセスを明らかにした。

なお初年度に実施した探索的な調査研究を踏まえ、研究目的を達成するために途中で対象の具体化および調査項目について見直しを行った。このため当初よりも一年延長し、4年間で研究を実施したが、それにより当初の研究目的を達成できたと考えている。

5. 主な発表論文等  
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 7 件)

高谷幸、親密圏の構築 在日フィリピン人女性支援 NGO を事例として 社会学評論、査読有、62(4)、2012、554-570、[https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsr/62/4/62\\_554/\\_article/-char/ja/](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsr/62/4/62_554/_article/-char/ja/)

高谷幸、日本で働く移住労働者をめぐる現状と課題、労働の科学、査読なし、67(2)、2015、4-7.

高谷幸・大曲由起子・樋口直人・鍛冶致・稲葉奈々子、2010 年国勢調査にみる在日外国人女性の結婚と仕事・住居、文化共生学研究、査読なし、14、2015、89-107.

高谷幸・大曲由起子・樋口直人・鍛冶致・稲葉奈々子、1990 年国勢調査にみる在日外国人女性の結婚と仕事・住居、文化共生学研究、査読なし、13、2014、97-114.

高谷幸・大曲由起子・樋口直人・鍛冶致・稲葉奈々子、家族・ジェンダーからみる在日外国人 1980・85 年国勢調査データ分析、岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要、査読なし、38、2014、57-76.

高谷幸・大曲由起子・樋口直人・鍛冶致、2005 年国勢調査からみる在日外国人女性の結婚と仕事・住居、文化共生学研究、査読なし、12、2013、39-63.

高谷幸・大曲由起子・樋口直人・鍛冶致・稲葉奈々子、1995 年国勢調査にみる在日外国人の結婚と仕事・住居、岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要、査読なし、36、2013、59-80.

〔学会発表〕(計 5 件)

高谷幸、在日フィリピン人母子世帯の貧困、法政大学大原社会問題研究所『子どもの労働と貧困』研究会、2015 年 12 月 19 日、法政大学

高谷幸、在日フィリピン人女性のトランスナショナルな市民社会への参加、多文化関係学会学際シンポジウム「地域をベースに多文化共生を考える」、2015 年 11 月 15 日、岡山大学(招待発表)

TAKAYA Sachi, “Filipino wives in Japan serving as mediators in transnational civil societies,” *IUAES Inter-Congress 2014*, International Conference Hall of Makuhari Messe, Japan, May 16, 2014.

TAKAYA Sachi, “Citizenship of Long-Term Migrant Filipino Women in Japan: Impacts of Positions in Japanese Families,” *XVIII ISA World Congress of Sociology*, Pacifico Yokohama, Japan, July 17, 2014.

TAKAYA Sachi, “Making irregular migrants vulnerable: A tangle of biopolitics and morals in Japan,” *XVIII ISA World Congress of Sociology*, Pacifico Yokohama, Japan, July 19, 2014.

〔図書〕(計 6 件)

高谷幸、近刊、「現代日本におけるジェンダー構造と国際結婚女性のシティズンシップ」、安里和晃編『親密性の労働と国際移動』、京都大学学術出版会。

TAKAYA Sachi, forthcoming, “Citizenship of Women in International Marriages and Gender Structure in Contemporary Japan,” Asato Wako ed., *Intimate Work and International Migration*, Brill.

高谷幸、2016、「フィリピンにおける国際移動」、西原和久・樽本英樹編『現代人の国際社会学・入門：トランスナショナルリズムという視点』、有斐閣、94-108.

高谷幸、2015、「近代家族の臨界としての日本型国際結婚」、大澤真幸ほか編『岩波講座 現代 9 身体と親密圏の変容』岩波書店、211-237.

高谷幸、2015、「グローバル化のなかの福祉社会」、宮島喬・佐藤成基・小ヶ谷千穂編『国際社会学』、有斐閣、96-113.

TAKAYA Sachi, 2015, “Making Irregular Migrants Insecure in Japan,” Jiyoung Song and Alistair D.B. Cook eds., *Irregular Migration and Human Security in East Asia*, Routledge, 23-37.

〔産業財産権〕  
出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：

番号：  
出願年月日：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

高谷 幸 (TAKAYA, Sachi)

研究者番号：40534433

所属機関名：岡山大学

部局名：社会文化科学研究科

職名：准教授

(2)研究分担者

( )

研究者番号：

(3)連携研究者

( )

研究者番号：